

口之津港開港450年記念 関連事業

なんでも鑑定団

出張!なんでも鑑定団in南島原

あなたのとおきの「お宝」を鑑定してもらいませんか。時代、ジャンルは問いません。これは!という「お宝」をぜひ応募ください。

あなたのお宝大募集
美術品からお菓子のオマケまで、「なんでも」ご応募ください。

観覧募集

- 開催日(予定) 6月3日(日) 入場無料
- 場所(予定) ありえコレジヨホール
- 時間(予定) 開場▶12:00 開演▶13:00

※応募方法などは後日、ホームページおよび全世帯にチラシ配布でお知らせします。

◆お問い合わせ 口之津港開港450年記念事業実行委員会(南島原市企画振興課内)
☎050(3381)5030 WEBブラウザ「南島原市」で検索

予定されている関連事業

- 第5回 南島原市市民文化祭
展示部門 2月10日(金)~12日(日)
芸能部門 2月5日(日)
- 第11回 南島原市セミナー3版画展
展示期間 2月18日(土)~26日(日)

南蛮人來朝之図(国認定旧重要美術品/長崎歴史文化博物館蔵)



— 特集 —

開港から450年

450年の節目を迎え、今なお多くの歴史ファンを魅了してやまない口之津港。南蛮貿易として、三池炭鉱石炭の中継積み出し港として、船員のまちとして、盛衰を繰り返す口之津港には、港の水面の穏やかさは裏腹に、激動の歴史がありました。今月は、「開港から450年」と題し、口之津港の歴史を振り返ります。

2012年記念の年、スタート

今年、2012年は、口之津港の開港450年を迎える記念の年です。これを記念し、9月22日、23日に行われる記念式典、メインイベントのほか、さまざまな行事が予定されています。今回の事業は、港に関わった先人や歴史や文化に触れ、顕彰することはもちろん、この記念事業を契機として国内外に「南島原市」を発信することを目的に行われます。市民皆さんの周りでもさまざまな催しが行われますので、ぜひご参加ください。

自然の良港。故に

口之津港は、水深が深いことや、水面が穏やかで停泊しやすいことなどから、巨大な

栄枯盛衰を繰り返す

それから時が過ぎ、明治9年。口之津港に再び転機が訪れます。現在の大牟田市の三池炭鉱の石炭の中継積み出し港としての繁栄です。三池港は遠浅

南蛮船が入港するために必要な条件を備えた「天然の良港」。同港が、その歴史の舞台となったのは、ある意味必然とさえいええました。

口之津港開港

口之津港開港の歴史は、今から450年前、1562年にさかのぼります。

時の領主有馬義貞が、大村藩主で実弟である大村純忠を上空から見た口之津港。深い入江が特徴



のため、大型船が接岸できません。三池で掘り出され、小型船で運び込まれた石炭は、大型船に積み替えられて、口之津港から世界中に運び出されました。今も残る当時の口之津港の写真には、小舟の帆柱が乱立する姿が残されており、その隆盛を今に伝えています。



明治初期頃の口之津港

しかし、こうした隆盛も、三池築港の完成により、再び幕を閉じるのでした。

隆盛三度

その後、口之津港、というよりも口之津としての3度目を

メインイベント 開催決定

9月22日(土)・23日(日)

※イベント内容等は決定次第、随時お知らせします。

通じて、口之津港を貿易港として開港したのが始まりです。その5年後となる1567年には、南蛮船3隻が入港。南蛮貿易が始まります。その後、1582年までの間に合計7隻が入港するなど、大いににぎわいました。

キリスト教、セミナーヨ、活版印刷、南蛮文化などがこの口之津港から入り、天正遣欧少年使節が発発したのもこの頃です。繁栄を極めた口之津港。しかし、その隆盛も長くは続きませんでした。口之津港は、島原の乱、その後の鎖国の流れの中で、歴史の舞台から姿を消します。

のピークが訪れます。高度経済成長による、船舶数の増大と船員需要の増加です。その需要に因應るべく、口之津から多くの船員が世界の海へ羽ばたいていきました。それではなぜ、口之津のまちには、船員が多かったのでしょうか？

三池築港の完成に伴い、にぎわいのなくなった口之津でしたが、このとき、三池炭鉱を採掘していた三井物産は、失業者を優先的に乗船させました。これが、口之津の「船員のまち」としてのスタートでした。

その後、国立口之津海員学校の創設や、船舶数の増大、彼らのまじめな気質や、優秀な能力が後押しし、いつしか「船員のまち」と呼ばれるようになりました。今は輸送手段の多様化や外国人の船舶労働者の増加からかつてほどの勢いはありません。ですが、今でも「船員のまち」として、多くの船乗りを輩出しています。

*来月号からコラム「開港450年」の連載をスタートします。皆さんお楽しみに。